

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信

2020年4月22日 広報センター No. 35



先が見えないパンデミック！ 新型コロナウイルス禍で外出自粛・イベント中止など自粛ムードが拡がりふろたんメンバーも多くの在宅勤務になったりして交流がままならない中での発信になった通信 35 号、今迄皆さんから寄せられた情報をお伝えします。

◆4月早々に連絡があったのは「ミャンマー祭り2020」の延期です。

5月30・31日が11月21・22日に変更になりました。2013年から毎年参加している芝増上寺のミャンマー祭りの会場ではいつも「日本・ミャンマー交流写真展」が開かれています。先輩格のNPO法人のまちナビ倶楽部の大石武朗さんから審査委員長の関口照生さん（竹下景子さんのご主人）が熊谷高校の同級生だということで昨年11月に突然の電話で紹介戴きました。2020会場で改めてご挨拶することにしていましたが先送りになってしまいました。

祭りは延期になったけど写真応募の締め切りは4月末迄のままです。良い写真があったら応募ください。



◆今1番気になるのは今年度のスタディツアーの実施です。ミンガラバーユネスコクラブの安彦さんと相談し毎年交代ですることとしたミャンマーツアーの今年の当番はふろたん工房です。昨年12月10日URリンテージの海外プロジェクトを担当している栗村・相田両氏を中心としたスタディツアー企画検討会をスタートさせたことを通信33号で報告しました。今年1月には日本ミャンマー協会の渡邊祐介さんからJETRO（日本貿易振興機構）ヤンゴン事務所の所長さんがアウトドア派でピクトリア山登山に関心があるとの紹介もいただき、具体化を目指そうとしていたところでの緊急事態宣言でした。中国とインドと国を接するミャンマーでも感染は拡大しています。ツアー中止を決断をする日が迫っているのかもしれません。

◆アウンサンスーチーさんから日本ミャンマー共同制作の「ビルマの豎琴」の提案！

今年2月9日ヤンゴンで開催され、平原綾香・森崎ウィンがコンサートに参加した日本・ミャンマー交流イベント「ジャパン・ミャンマー・フエド-2020」でアウンサンスーチーさんはビデオメッセージを寄せて、ミャンマー映画誕生100周年記念事業として日本ミャンマー共同制作映画を提案されました。今まで日本で2回製作された「ビルマの豎琴」は、ミャンマーでロケは行われておらずミャンマー人俳優も参加していない。今度は起用してほしいとまでコメントしています。



1956年

1985年

昨年12月16日付の通信33号では恵比寿の「びるまの豎琴」のモーコさんと佐野さんから勧められた二つの映画「日本の娘」「蜜蜂と遠雷」を紹介しています。ユネスコの「世界視聴覚遺産の日」の記念特別イベントとして10月26日に京橋の「国立映画アーカイブ」のホールで上映された「日本の娘」は日本とビルマ初の合作映画で終戦の10年前の昭和10年(1935年)の作品です。そして今新たに提案された日本とミャンマー共同制作映画が、ふろたん工房スタート時から度々取り上げてきた「ビルマの豎琴」です。時間がかかっても心を込めて応援し見守りましょう。

◆ホームページのふろたん技研コーナーを活用ください。

自粛ムードはしばらく続きそうです。外出禁止で引き籠り生活になってしまってもイラつくことなく、緊急事態宣言によって与えられた想定外の貴重な時間と思いつその時間を活かすことを考えて過ごしてみましょう。

「小さな団体にはホームページだけは立派だね」などと云われたふろたん工房のホームページに2018年4月に追加開設した「ふろたん技研コーナー」は、技術研究所の研究レポート発表コーナーです。明るい未来につながる活動の提案などを大論文ではなくコンパクトなレポートにしてお届けください。会員以外の方でもどなたでも利用できます。現在技術研究所の活動として取り組んでいるミャンマー語版を届ける2冊の本の活動も協力スタッフを増やし進めています。

「ほとけの姿(改訂版)」

西村公朝作

「子どもにつたえる日本国憲法」

井上ひさし著・絵いわさきちひろ



雨ニモマケス 風ニモマケス 新型コロナニモマケヌ 丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク 決シテ驕ラス イツモシツカニワラフテキル サウイフふろたん人ニ ワタシハナリタイ/ケンジ